

第93回 CPD セミナー・公開講座・防災セミナー(徳島)

四国本部 事業委員
大村 史朗
OOMURA Shirou
四国建設コンサルタント(株)



1. セミナーの概要

2024年5月18日(土)、徳島市阿波観光ホテルにおいて、第93回CPDセミナー・公開講座・防災セミナーを開催しました。あわせて技術士二次試験合格者祝賀会も開催しました。

セミナー参加人数は48名(うちWeb参加5名)、また祝賀会参加人数は43名でした。

表1 プログラム

1. 開会 (13:00~13:25)

(1) 開会挨拶

(公社) 日本技術士会四国本部
本部長 天羽 誠二

(2) 四国本部及び青年技術士委員会の紹介

(公社) 日本技術士会四国本部
広報委員 菊池 昭宏

2. CPDセミナー (13:35~14:35)

演 題:『交通事故リスクを活用したこれからの交通安全マネジメント』

講 師: 徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授 兵頭 知氏

3. 公開講座 (14:45~15:45)

演 題:『生コンクリート業界の現状と課題に対する取り組み』

四国生コンクリート工業(株) 代表取締役, 日昇商事(有) 常務取締役
和仁 孝成氏

4. 防災セミナー (15:55~16:55)

演 題:『災害がもたらす心理的反応と対応時の注意点』

講 師: 徳島大学 大学院社会産業理工学研究部 教授 内海 千種氏

5. 懇親会 (17:40~19:40)

- | | | |
|------------|-----------|-------|
| (1) 開会挨拶 | 四国本部総務委員長 | 豊崎 裕司 |
| (2) 乾杯 | 四国本部会計幹事 | 友安 啓介 |
| (3) 合格者の紹介 | | |
| (4) 中締め | 四国本部会計幹事 | 菊池 昭宏 |

2. 開会挨拶 天羽本部長

四国本部天羽本部長の開会挨拶で始まりました。



写真1 天羽本部長の開会挨拶

3. 四国本部及び青年技術士委員会の紹介

菊池広報委員

四国本部 広報委員会の菊池委員より、日本技術士会の紹介、また四国4県における青年技術士交流委員会活動について、本年度の活動内容を挙げての紹介がありました。



写真2 菊池広報委員による紹介

4. CPD セミナー 兵頭 知氏

公開講座では、徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 准教授 兵頭 知氏より、『交通事故リスクを活用したこれからの交通安全マネジメント』と題し、ご講演いただきました。

ご講演では、まず交通事故状況の推移と現状について、交通事故死者数については平成4年のピーク後令和4年に2,610名まで減少していること、自動車走行台キロ当たりの死者数・負傷者数についてはほぼ一貫して減少していることを提示のうえ、更なる削減に向け、現状の対策に加え新たな視点・対策が重要となるとお話になりました。

そのために、まず交通事故のリスクを以下のとおり定義したうえで、交通事故件数(N)を減らすためには、交通事故リスク(R)と走行量(L)の双方に働きかける必要があることをお示しされました。

$N(\text{事故発生件数})=R(\text{交通事故リスク}) \times \Sigma L(\text{走行量})$

ここで、交通事故リスク(R)の低減策としては、ハード対策としての道路整備や改良等が、走行量(L)の低減策としては、ソフト対策として需要の調整等が該当するとのことでした。

そのうえご研究では、これら交通事故リスクについて、交通事故リスクモデルを用いて定量化し、分析、可視化、さらに道路情報板等によりリアルタイムで利用者に提供することで交通事故を低減できる可能性があること、例えば、降雪時の事故発生リスクを周知することで高速道路の選択率が55%から61%に増加し、それにより約8%の交通事故削減効果を確認できた事例もあることを紹介されました。ご研究ではその他、舗装打ち換え時年数が施設接触事故リスクに影響することから、交通事故リスクを舗装打ち換え時期の最適化へ活用すること等も検討されているとのこと。

BIG データを分析、積極的に活用することで、様々な視点からの交通事故対策を行うという、道路管理の未来を垣間見たように思いました。



写真3 兵頭氏のご講演

5. 公開講座 和仁 孝成氏

CPDセミナーでは、四国生コンクリート工業株式会社代表取締役、日昇商事有限会社常務取締役の和仁 孝成氏より、『生コンクリート業界の現状と課題に対する取り組み』と題し、ご講演いただきました。

ご講演では、初めに生コンクリート業界について、出荷量が激減する等、経営環境が著しく悪化している状況をお示しになりました。そのうえで、事業継続のためには「人財」の採用、辞めない仕組み作り、育成が重要と考え、そのために実施した様々な取組をご紹介いただきました。

特に、選ばれる会社となるために大変だったのが、応募して頂ける給与、休日、福利厚生等の労働環境づくり、社員の協力としてみんなで採用するという雰囲気づくり、どうやったらいいかわからなかった「共育」制度の3つであったとのこと、これらに取り組む過程で起こった出来事、その対応策などをお話いただきました。

道半ばではあるとのことでしたが、四国で一番古く創業した生コン工場でありながら、今ではより先進的な取組をしている工場として県外からも見学に来られるようになったとのこと。苦労しながらも魅力が向上していく様子が伝わってきて、楽しく拝聴させていただきました。



写真4 和仁氏のご講演

6. 防災セミナー 内海 千種氏

防災セミナーでは、徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 教授 内海 千種氏より、『災害がもたらす心理的反応と対応時の注意点』と題し、ご講演いただきました。

内海氏のご講演では、東日本大震災や熊本地震へのDPAT(災害派遣精神医療チーム)、緊急SC(スクールカウンセラー)派遣等における自らのご経験も踏まえ、災害を体験した人たちに接するとき、なぜ知識が必要かについてお示しされました。それは、災害体験後には心理状態の変化が大きく、反応も様々であったため、知識がなければ、その人の気持ちを見誤ってしまうことがあるためとのことでした。

そのうえで、災害体験後に心身に起こる変化として、災害直後の「茫然自失期」を経て、気分が積極的・発揚的になる「ハネムーン期」(この時期は頑張りすぎてしまうなどの行動があるようです)があり、長い幻滅期があって、ようやく「再適応」に至るという、時系列による変化をお示しいただきました。

また災害体験後にみられる「反応」として、心理的な反応(恐怖、不安、怒り、イライラ等々)、身体行動上の反応(不眠、食欲不振、頭痛、持病の悪化等々)、PTSD 関係(再体験、覚醒亢進、回避)、被災者に特有の反応(罪悪感、無力感等)を挙げられました。これらは病気の「症状」ではなく、異常事態における正常な「反応」だと説明され、「反応」を使った理由として納得しました。



写真5 内海氏のご講演

最後に、災害を体験した方と話をするときには、無理に体験を聞き出そうとしない、話をささげらずに気持ちをうけとめる、安易に励ましたり努力を促したりしない、事実の受け止めや気持ちを強制しない、物理的な指標や個人の判断基準で体験の判断をしないことを注意点として挙げられまし

た。特に、ショック状態が認められる、体験後に生じた心身の変化のために日常生活に支障が出ている、自死をほのめかす言動が見られる場合は、医療的な対応を求めて下さいとのこと。

南海トラフの巨大地震、豪雨災害等への備えが必要な私たちは、物資の準備だけではなく、このような心の準備も行う必要があるとして、まとめとされました。

7. 合格者祝賀会

セミナーの後、令和5年度技術士第2次試験合格者祝賀会が開催されました。

今回は5名の合格者が参加されました。四国本部の豊崎総務委員長の開会挨拶、友安会計幹事の乾杯の音頭により祝賀会が始まりました。2時間余りの歓談の後、四国本部 菊池会計幹事の中締めにより、祝賀会も無事終了することができました。



写真6 友安会計幹事の乾杯

8. おわりに

セミナー参加者は、計48名のうち会員が34名、非会員が14名でした。今回もWeb配信を行っており、遠くは関東の方からご参加いただけただことはうれしい限りです。

今後は、(一社)建設コンサルタンツ協会、(一社)徳島県測量設計業協会等への後援依頼や技術士会独自の広報活動を展開するとともに、セミナー内容の充実を図ることにより、出席者の確保に努めて参ります。